

2006年12月26日

ファンデーションの常識を覆す新発想の顔料表面処理技術
汗や皮脂による「くすみ」を解消し、“つけたての美しさ”が持続する
「ブライトステイパウダー」の開発に成功

株式会社カネボウ化粧品

当社・製品開発研究所は、パウダーファンデーションの化粧持ち（ラスタイング）機能向上を従来とは全く異なる新しいアプローチで実現する、新規表面処理顔料「ブライトステイパウダー」の開発に成功しました。

この新素材は、春夏用ファンデーションに求められる、「よれ」「テカリ」「くずれ」「くすみ」などを防ぐ様々な化粧持ち機能のうち、これまで根本的な解決が難しいとされてきた「くすみ」を防ぐ効果を飛躍的に向上させます。

これにより、ファンデーションの化粧持ち機能が強化され、つけたての美しさが持続するとともに、透明感のある仕上がりが実現します。

尚、この技術を来春発売予定の春夏用ファンデーションに応用していく予定です。

多くの女性を悩ませるファンデーションの「くすみ」

春夏用ファンデーションには様々な化粧持ち機能が求められますが、近年は高い撥水・撥油性を持つ「フッ素系表面処理顔料」の進歩により、「よれ」「テカリ」「くずれ」防止といった面では目覚ましい進化を遂げてきました。しかし、「くすみ」に関しては、なかなか根本的な解決が得られず、女性のファンデーションに対する悩みの中でも難しい課題となっています。

「くすみ」は、経時で色が暗くなる現象です。原因としては、経時における肌自体の色の变化なども考えられますが、最も大きな要因として挙げられるのが、ファンデーションに含まれる顔料の表面が汗や皮脂に覆われることにより顔料がぬれて、その色が変化して見えてしまうことです。従来の考え方では、“フッ素系表面処理技術による撥水・撥油性で顔料をぬらさない”というアプローチが主流でしたが、長時間にわたって汗や皮脂を防ぐというのは難しいのが現状です。

逆転の発想が生んだ新素材

当社は長年、ファンデーションの経時による「くすみ」を改善する素材開発に取り組んできました。今回開発した新規表面処理顔料「ブライトステイパウダー」は、フッ素系表面処理技術による“顔料をぬらさない”というアプローチとは全く正反対の、“**初めから顔料をぬらしておく**”という逆転の発想により誕生した画期的な新素材です。これは、「あらかじめそれ以上は色が変わらないという状態まで顔料をぬらしておく」ことで、ファンデーションの色の経

時変化を抑え「くすみ」を防ぐ、という発想です。

しかし、単純に顔料をオイル等でぬらすだけではファンデーションの感触の悪化(べたつき)につながり、さらにはスポンジにとれないという現象を引き起こします。そのため、“初めから顔料をぬらしておく”というアプローチで素材を開発するには、“ぬれている”ことに加え“感触はサラサラ”という、相反する二つの性質を顔料に付与することが必要になります。これを実現するために当社は、2種類の性質の異なるシリコン膜で顔料を二重にコートする表面処理技術の開発に成功しました。この技術を用いた新規表面処理顔料が「ブライトステイパウダー」なのです。

「ぬれているのにサラサラの感触」を実現する二重構造の表面処理膜

「ブライトステイパウダー」の表面処理膜は二重構造となっており、内層がゲル状のシリコン膜、外層をしっかりと固まったシリコン膜が覆っています。まず、ゲル状の柔らかいシリコン膜が顔料の小さな凹凸を埋め、顔料をぬらすように働きます。次に、べたついてしま

うこのシリコン膜の外側を、乾いてしっかりと固まったさらさらとした感触のシリコン膜でコーティングすることで、べたつきを抑えます。この設計により、“ぬれているように見えるが感触はサラサラ”というパウダ

ーの常識を覆す素材を完成するに至りました。

この「ブライトステイパウダー」は、ぬれることによる色の変化が従来の素材よりも格段に少ないことを確認。これは、経時による「くすみ防止」が実現したことを意味します。さらに、初めからぬれた質感を有しているため、これを配合したパウダーファンデーションは粉っぽさのない適度に肌に馴染んだ仕上がりとなり、クリアな透明感を演出するのに最適な素材であることも確認しました。

この新規表面処理顔料を用いることで、今までにない「くすみ防止機能」をもつパウダーファンデーションの実現が可能となりました。この新素材はラスティングファンデーションを新たなステージに進めるにあたり非常に有効な素材であると考えます。

尚、この技術に関しては、2007年3月7～9日にシンガポールにて開催される、アジアの化粧品研究者のための学会「ASC S 2007」にて発表を予定しています。

